

2014 年第 134 号

(2014. 12. 18)

2015年の旅行動向見通し

節約志向は続くも、心を満たす消費には前向き**日本人のレジャー・旅行意欲は堅調****訪日外国人数は過去最高の 1500 万人へ**

- 国内旅行人数は 2 億 9,030 万人 (前年比+1.0%)
- 海外旅行人数は 1,700 万人 (前年比+0.4%)
- 訪日外国人数は 1,500 万人 (前年比+13.0%)

JTBは、2015年の旅行市場についての見通し調査の結果をまとめました。この調査は、1泊以上の日本人の旅行(ビジネス・帰省を含む)と訪日外国人について、各種経済動向予測、旅行消費者購買行動調査、観光関連動向等から推計したもので、1981年の調査開始以来35回目となります。

推計した2015年の旅行市場規模は次の通りです。

	2015年		2014年		2013年
	見通し数値	前年比	推計	前年比	実績推計
総旅行人数(延べ人数)	3億730万人	+1.0%	3億,433万人	▲1.3%	3億833万人
国内旅行人数	2億9,030万人	+1.0%	2億8,740万人	▲1.2%	2億9,090万人
海外旅行人数	1,700万人	+0.4%	1,693万人	▲3.1%	1,747万人
平均消費額					
国内旅行平均消費額	33,700円	+0.7%	33,450円	▲1.4%	33,940円
海外旅行平均消費額	279,100円	+2.0%	273,600円	+3.0%	265,600円
旅行総消費額	14兆5,200億円	+2.0%	14兆2,400億円	▲1.8%	14兆5,000億円
国内旅行消費額	9兆7,800億円	+1.8%	9兆6,100億円	▲2.6%	9兆8,700億円
海外旅行消費額	4兆7,400億円	+2.4%	4兆6,300億円	±0.0%	4兆6,300億円
平均旅行回数	2.42回	+0.12回	2.30回	▲0.12回	2.42回
訪日外国人数	1,500万人	+13.0%	1,328万人	+28.2%	1,036万人

* 国内旅行消費額は、自宅を出発してから帰宅するまでの総費用。現地での買物代、食事代等現地消費分を含む。旅行前後の消費(衣類など携行品の購入費用など)は含まない。

* 海外旅行消費額は、旅行費用のほか現地での買物代、食事代等現地消費分を含む。旅行前後の消費(衣類など携行品の購入費用など)は含まない。

* 訪日外国人旅行は、人数予測のみで消費額は算出していない。

* 実績推計は、法務省発表の出入国者数実績をもとに昨年末推計値を修正したもの。

2015 年の環境

1. 消費全般は節約ムードが継続、円安基調は続き、訪日旅行者には好環境

2014年は、4月の消費増税に伴い、一部に駆け込み需要が見られたものの、その後、原材料高などによる物価の上昇もあり、節約ムードが続いている。消費税が10%に引き上げられる時期は2017年の4月に先送りされ、消費増税の影響は一旦落ち着くと考えられるが、2015年も物価の上昇傾向は続くと思われることから、当面消費者の節約志向は継続すると予想される。しかしながら、価格の訴求だけでなく、付加価値を提供している企業は業績を上げていること、円安や原油価格の下落傾向の恩恵を受ける大手製造業を中心に、企業業績の改善が期待できることから、昇給や夏の賞与が増加する企業が増えれば、夏以降に向けて明るい材料となるだろう。

為替レートについては引き続き円安基調で、訪日外国人にとっては日本へ旅行しやすい環境が続き、関連する産業にも追い風が吹くと言える。

(表1) 年末の為替相場(東京外国為替相場/T.T.S 三菱東京UFJ銀行調べ) (2014.12.10)

	2008 年末	2009 年末	2010 年末	2011 年末	2012 年末	2013 年末	2014 年 12 月 10 日
1 米国ドル	92.03	93.10	82.78	78.74	87.58	104.35	120.46
1 英国ポンド	135.83	150.53	130.55	123.81	143.52	173.71	191.19
1 ユーロ	129.46	133.50	110.57	102.21	116.21	143.46	149.39
100韓国ウォン	7.47	8.09	7.49	6.95	8.30	10.03	11.01
1 香港ドル	12.18	12.31	10.95	10.43	11.60	13.76	15.84

2. 旅行意欲は堅調。所得増が消費に直結しやすい若者の動きに期待

2015年の初頭は、節約志向が続くと予想されるものの、心を豊かにしたり、充実した時間を過ごしたりするための消費マインドの高さは継続し、旅行への意欲も堅調に推移する見込み。当社が11月に実施した旅行動向アンケート調査の結果で、今後1年間の旅行回数、旅行費用についての意向をみると、「国内旅行が増える」と回答した人が全体で14.6%と前年より1.8ポイント増加し、今後1年間の旅行総支出を「増やしたい」と回答した人も11.9%と前年より1.5ポイント増加した。また、年代別に今後1年間の旅行回数の変化を聞いた質問では、20代で「増える」と回答した人の割合が23.0%と最も高くなった(図1)。LCCや高速バスなど比較的手ごろに旅行できる手段が広がり、賞与増など一時的な所得増が消費に繋がりやすい若者の動きが期待される。

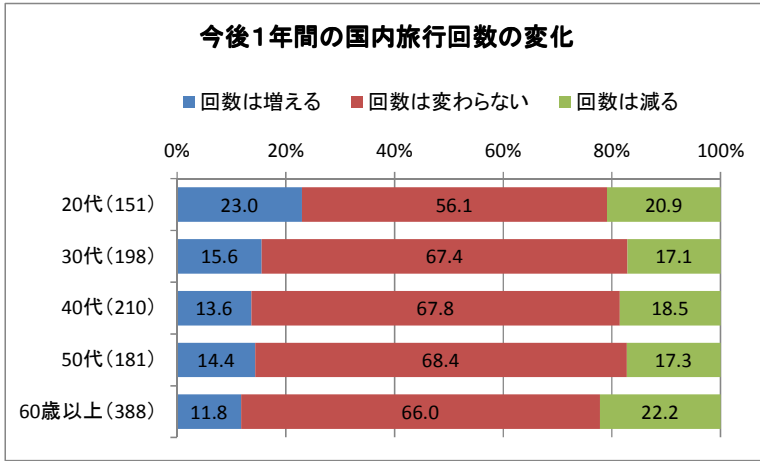
(表2) 旅行意向アンケート結果:今後1年間の旅行回数

		2015 年	(前年差)	2014 年	(前年差)	2013 年	(前年差)	2012 年
国内	増える	14.6%	1.8	12.8%	-1.8	14.6%	-1.4	16.0%
	現状維持	65.4%	3.7	61.7%	-3.4	65.1%	0.1	65.0%
	減る	20.0%	-5.4	25.4%	5.1	20.3%	1.3	19.0%

(表3) 旅行意向アンケート結果:今後1年間の総旅行支出

	2015 年	(前年差)	2014 年	(前年差)	2013 年	(前年差)	2012 年
増やしたい	11.9%	1.5	10.4%	-6.0	16.4%	2.0	14.4%
現状維持	57.8%	3.0	54.8%	-2.0	56.7%	-0.9	57.7%
減らしたい	30.3%	-4.6	34.9%	8.0	26.9%	-1.1	27.9%

(図 1) 今後1年間の国内旅行回数の変化予想 *JTБ旅行動向アンケート調査(戸別訪問調査)



3. 9月に6年ぶりのシルバーウィークで5連休。ゴールデンウィークは後半に集中

2015年の連休の日並びに関しては、GW・正月を除く週末の3連休が6回と2014年より1回、2013年より2回少なくなる。

GWは5月2日(土)から5月6日(水)までが5連休となり、2014年より1日長い連休となるが、4月29日(水)は前後に平日が2日間ずつ入るため、人出は後半に集中することが予想される。

8月の旧盆時期は8月15日が土曜日と重なり、2014年と比較すると短めのお盆休み。しかし、9月には6年ぶり2回目となる「シルバーウィーク」があり、9月に遅い夏休みを取る人も多くなりそうだ。

※9月21日(月)が「敬老の日」、9月23日(水)が「秋分の日」となり、間には含まれた22日(火曜)も「国民の祝日に関する法律*」の規定で休日になるため、19日(土)も含めると5連休。次のシルバーウィークは2026年になる見込み。

*「国民の祝日に関する法律」第三条:その前日及び翌日が「国民の祝日」である日(「国民の祝日」でない日に限る。)は、休日とする。

ゴールデンウィークの曜日(4~5月)

日	月	火	水	木	金	土
4/19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	5/1	2
3	4	5	6			

旧盆の曜日(8月中旬)

日	月	火	水	木	金	土
						8/8
9	10	11	12	13	14	15
16						

シルバーウィークの曜日(9月中旬)

日	月	火	水	木	金	土
9/13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27						

4. 北陸新幹線の開通で訪日旅行者も含め、旅行者の動線が変わる

2015年3月の北陸新幹線開通で、東京、大阪から金沢までそれぞれ2時間半で移動可能。現在、東京-金沢間にかかる時間は3時間50分で、約1時間20分の短縮となる。同じく新幹線が通る、富山や、金沢から先の能登などの旅行者の増加も見込まれる。

訪日旅行者については、ゴールデンルートと呼ばれる「大阪-静岡-東京」に加え、昇龍道と呼ばれる三重、愛知、長野、富山、石川などを巡るルートも人気が高まってきており、昇龍道と大阪、東京などの大都市との組み合わせも注目される。

5. 何気ない日常の風景も観光素材。旅は「異なる日常」を楽しむ場へ

ここ数年で普及が広がった SNS によって、旅行者が何気ない風景の中で「自分だけ」が見つけたものや体験を発信することが増えている。これまでのように、誰もが訪れる有名な観光地だけではなく、そこに住んでいる人にとっては「日常」であっても、旅行者にとっては、普段と違う場所、違う文化の中で触れる「異なる日常」が観光資源になるとも言える。街中の路地や地元のカフェ、雑貨屋巡りなどを楽しむ旅行者も少なくない。このようなことを背景に、体験プランや街歩きを推進している地域も増えている。

また、スマートフォンやウェアラブルカメラなどを利用し、仮想の世界と実際の風景を重ね合わせた新しい観光の手法も広がっていくと考えられる。今後は、旅行者の発信の形もより多様化しそうだ。

2015 年の見通し

(国内旅行)

2015 年の国内旅行人数は 2 億 9,030 万人(+1.0%)、国内旅行消費額は 9 兆 7,800 億円(+1.8%)と推計。

今年は 9 月にシルバーウィークとなる 5 連休があり、9 月に遅い夏休みを取る動きが増えると予想される。GWの後半は 5 連休で昨年より 1 日長い休みとなるが、前半は飛び石連休となることから、後半に人出が集中する見込み。

物価の上昇傾向や先行きへの不透明感から節約志向は続くことが予想されるが、旅行意欲は引き続き堅調であることから、日程や行先を調整しつつも旅行を楽しむ動きは衰えないだろう。ガソリン代が下がっていることも、自家用車での旅行を後押しすると考えられる。

平均消費額は消費増税や円安、原材料高による物価上昇などの影響に加え、消費者アンケート結果でも、今後 1 年間の総旅行支出を「増やしたい」割合が 11.9%と昨年より 1.5 ポイント増加していることから(表 3)、上昇を見込む(33,700 円、+0.7%)。

・新幹線のその先へ。観光列車で楽しむ旅が広がる

北陸新幹線の開業に伴い、金沢から和倉温泉をつなぐ七尾線観光列車「花嫁のれん」や和倉温泉の先へと進むのと鉄道の「のと里山里海号」が運行を開始する。2013 年から運行を開始している「TOHOKU EMOTION」(八戸-久慈)や肥薩おれんじ鉄道が運行する「おれんじ食堂」(八代-川内)など、新幹線からその先の地域を楽しめる観光列車が人気となっており、2015 年はよりその選択肢が広がりそうだ。

・修復工事終了の姫路城や世界遺産登録が期待される「明治日本の産業革命遺産」などが話題に

2013 年は富士山-信仰の対象と芸術の源泉、2014 年は富岡製糸場と絹産業遺産群と、世界遺産登録地が人気となった。今年、すでに世界遺産となっている姫路城の大天守閣保存修理が終了し、一般公開が再開される。また、高野山も開創 1200 年を迎え、16 年ぶりに本尊、弘法大師が開帳されるなど、注目が集まりそうだ。

また、2015 年 6 月に登録の可否が審査される「明治日本の産業革命遺産」、世界新三大夜景に選出された長崎(2016 年に「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として審査予定)なども話題。

・テレビドラマ人気でウイスキー工場がある北海道や東北への関心が高まる

近年、日本酒の酒蔵やワイナリーが安定した人気を集めている。また、2014 年に始まったテレビドラマの人気から北海道や、ドラマの舞台ではないものの、ウイスキー工場がある宮城県や山形県など南東北も注目を集めており、2015 年も継続しそうだ。

・芸術やスポーツなど、目的を持って趣味を深める旅や一人旅に注目

文化庁による文化芸術創造都市推進事業の整備や瀬戸内国際芸術祭、越後妻有アトリエンナーレなどの成功を受けて、日本各地でアートを通じた地域活性化への動きが広まっている。2015 年には京都で初めてとなる大規模な現代芸術の国際展、「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」や「大地の芸術祭 越後妻有アトリエンナーレ 2015」の開催が予定され、多くの旅行者を集めると考えられる。

また、2020年の東京五輪決定によってスポーツにも関心が高まり、全国でマラソン大会やツーリング大会なども活発に行われていることから、自分の趣味や関心を深める目的型の旅も増えると考えられる。自分の趣味や関心を深める旅では、自分のペースで動けることを重視するため、一人旅も多い。

最近では、一人で参加できるツアーや宿泊プランなど、一人旅を楽しむ旅行者を受け入れる体制も整ってきており、一人旅にも注目したい。

(海外旅行)

海外旅行人数は1,700万人(+0.4%)、海外旅行消費額は4兆7,400億円(+2.4%)と推計。

2015年も円安基調が続くことや近隣諸国との関係、新しい感染症など、不安定な環境要素は残るものの、原油の下落傾向から、燃油サーチャージの減額も期待できるプラス要素もある。2014年11月には3年ぶりに日中首脳会談が開かれたことや、2015年は日韓国交正常化50周年であることなどから、徐々に関係良化へ向かう可能性がありそうだ。こうした状況から、海外旅行者数の減少は一旦底を打ち、2014年から微増となる1,700万人(+0.4%)の出国者数を見込む。平均消費額は、円安による現地での滞在費の上昇や、東南アジアなど中距離の国々が昨年に引き続き人気と見込まれることから、上昇するものと予測する(279,100円、+2.0%)。

・羽田空港のハブ機能強化で首都圏以外からも海外へ行きやすくなる

ANAはこの12月、羽田空港の国際線ネットワークを拡大し、国内線との乗り継ぎ利便性を向上させることを発表した。羽田空港の拡張によって2014年には羽田から海外へと出発する人が大きく増加したが、2015年も引き続き、LCCも含めて新規就航や増便が予定されている。国内線との乗り継ぎがしやすくなれば、首都圏だけではなく他の地域に住む旅行者にとっても、海外へ行きやすい環境となるだろう。

・LCC専用の成田第三旅客ターミナルビルの完成でよりLCCの利用も便利に

2015年4月にLCC専用となる成田第三旅客ターミナルビルが完成する。成田空港でのLCCの利便性が向上し、より気軽に海外へと足を運ぶことができそうだ。

・台湾に加え、ベトナムやシンガポールなどの東南アジアが引き続き人気。オーストラリアのビジネス需要の増加も期待される

増便や新規就航などの効果もあり、台湾やベトナム、シンガポールなどの東南アジアが人気となっている。LCCも含め、2015年も引き続き便数は増加の傾向にあり、人気は続くと考えられる。

また、2014年7月に締結された日豪経済連携協定をきっかけとして、カンタス航空が2015年8月より日本-オーストラリアを結ぶ便を週7便から14便と2倍に拡大し、レジャーだけでなく、ビジネス需要の高まりにも期待される。

2015年における主なLCCの就航予定

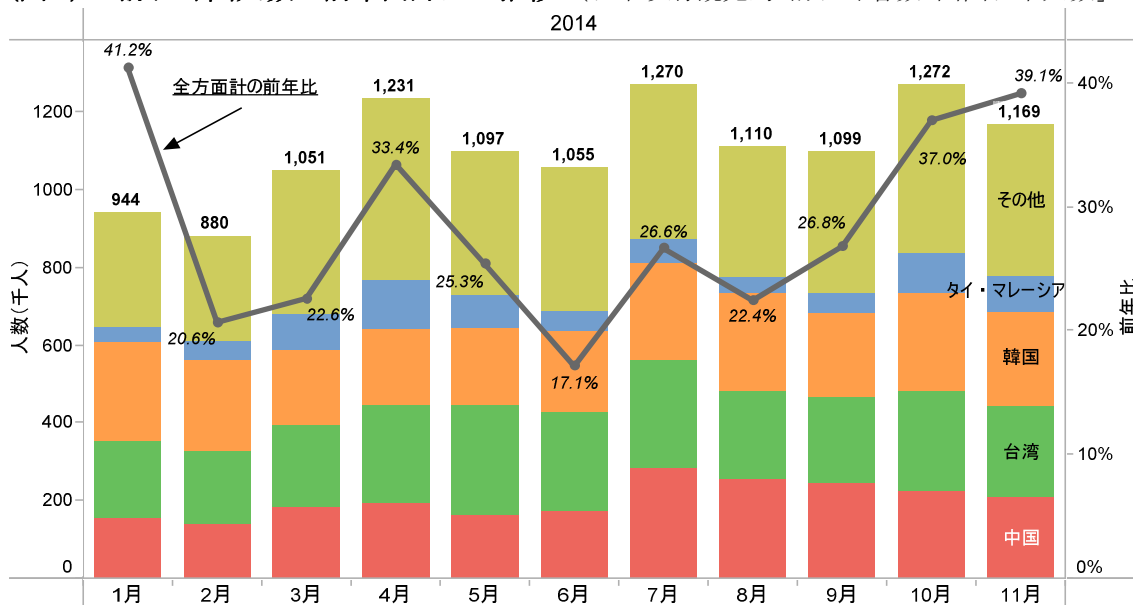
- バニラエア 成田～高雄 2015年2月1日就航予定
- 香港エクスプレス 成田～香港 2015年2月6日より増便予定
- ジェットスター・ジャパン 関空～香港 2015年2月28日より就航予定
- ノックスクート 成田～バンコク 2015年3月1日就航予定
- セブパシフィック航空 成田～セブ 2015年3月26日就航予定
- V エアー 成田～台湾(未定) 就航日 2015年前半予定

(訪日旅行)

訪日外国人数は 1,500 万人(+13.0%)と推計。円安基調やビザ緩和効果などにより過去最高を更新する見込み

2015 年は 2014 年の後半から実施されたインドネシア、フィリピン、ベトナムの 3 か国についてビザの発給要件の緩和の効果が顕著になる年となる。2013 年にはマレーシアとタイのビザが免除となり、2012 年から 2013 年にかけて、それぞれ 30%、70%を超える伸びとなった。円安基調で日本へ旅行しやすい環境が続くと予想されることもあり、2014 年にビザが緩和された 3 か国についても、訪日客数が伸びると予測する。

(図 2) 訪日外国人数の前年同月比の推移 (日本政府観光局「訪日外客数・出国日本人数」より作成)



参考) 中国の春節および国慶節のカレンダー (中国国家国務院の発表より作成)

春節の曜日 (2月)

日	月	火	水	木	金	土
2/15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
3/1	2	3	4	5	6	7

国慶節の曜日 (10月)

日	月	火	水	木	金	土
9/27	28	29	30	10/1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17

2015 年の年間予定

阪神・淡路大震災から 20 年		長野市善光寺御開帳(7年に一度)
広島・長崎原爆投下、終戦から 70 年		徳川家康 没後 400 年
高野山開創 1200 年		日韓国交正常化 50 周年
1 月	4 日(日) 9 日(金)	NHK 大河ドラマ 井上真央主演で吉田松陰の妹の生涯描く「花燃ゆ」放送開始 AFC アジアカップオーストラリア 2015(～31 日)
2 月	17 日(火) 未定	中部国際空港セントレア 開港 10 周年 2020 年東京五輪・パラリンピック大会開催基本計画が策定
3 月	7 日(土) 14 日(土) 27 日(金)	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015(～5 月 10 日) 北陸新幹線 長野～金沢間 開業 常磐線が東京駅まで乗り入れる東北縦貫線(上野東京ライン)が開業 姫路城大天守保存修理工事が終了し一般公開が再開
4 月	2 日(木) 5 日(日) 8 日(水)	高野山開創 1200 年記念大法会開催(～5 月 21 日) 長野市の善光寺、7 年に 1 度の「善光寺御開帳」を開催(～5 月 31 日) 成田空港に LCC 専用の第 3 旅客ターミナルが開業
春		旧新宿コマ劇場跡地に「TOHO シネマズ新宿」と「ホテルグレイスリー新宿」が開業 東京タワー内に「ONE PIECE」の世界観を体験出来る「東京ワンピースタワー」が開業
5 月	1 日(金)	イタリア・ミラノ国際万国博覧会(～10 月 31 日) 5 月発売分より、SIM ロック解除の義務化
6 月	6 日(土)	サッカー女子ワールドカップ(W 杯)カナダ大会(～7 月 5 日)
7 月	26 日(日) 未定	大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2015(～9 月 13 日) 仙台市内に東北最大級の水族館「仙台うみの杜水族館」開業
8 月	15 日(土)	70 回目の終戦記念日を迎える
夏		東京ディズニーランド®に「リロ&スティッチ」のシアター型新アトラクション開業
9 月	4 日(金) 26 日(土) 未定	ラグビーワールドカップがイングランドで開催予定(～10 月 17 日) 2015 和歌山国民体育大会「紀の国わかやま国体」開催(～10 月 6 日) 京都市洛北の山間エリアにアマンリゾートの「アマン京都」が開業
秋		大阪府吹田市エキスポランド跡地に大型複合施設が開業
12 月	18 日(金)	映画「スターウォーズ」シリーズ 10 年ぶりの新作公開
他	2015 年中	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市地下鉄東西線(動物公園駅～荒井駅)が開業予定 ・マイクロソフト「windows 10」発売 ・星野リゾート、「星のやばり」(星のやブランド初の海外進出)を開業予定 ・アップル、横浜市みなとみらい地区に米国国外初となる研究開発拠点を設立

2014 年の推計

【国内旅行】

・国内旅行人数は 2 億 8,740 万人(前年比▲1.2%)、平均消費額は 33,450 円(前年比▲1.4%)と推計

2014 年は、4 月に消費税が 5%から 8%へ引き上げられ、一部で増税前の駆け込み需要は見られたものの、その後の消費の落ち込みからの回復が遅れ、実質 GDP 成長率はマイナスとなる見込み。また、豪雨や台風などの悪天候や天災、燃料費高騰により、夏から秋の旅行シーズンへの影響も大きかったと考えられる。ただし、当社が実施したアンケート調査の結果では、消費増税後にも通信費や健康維持費、教育費、旅行や自分の趣味のための費用は節約しない傾向が見られ、節約する部分と節約せずに楽しむ部分を使い分けている様子もみられた。

こうした状況から、国内旅行者数は前年比▲1.2%の 2 億 8,740 万人程度、平均消費額は前年比▲1.4%の 33,450 円程度になると推計する。

(表 4) 消費増税後に節約したもの、節約しなかったもの

	節約度	①節約したもの	②節約しなかったもの
光熱費	◎	37.8	25.3
ガソリン代	▽	26.4	29.4
日常の食料品・食費	○	36.3	28.8
外食代	◎	39.8	21
通信費	▼	15.4	33.8
モバイル機器購入費	▼	13.1	25.6
国内旅行	▽	17.6	23.7
海外旅行	▽	13.4	19.2
健康維持費用	▼	13.8	24.5
子どもや孫の教育費	▼	5.5	29.3
自分の研修・学習費	▼	10.8	23.2
自分の趣味のための費用	▽	22.2	25.3
住居にかかる費用	▽	14.9	24.8
衣類、鞆などのファッション代	◎	34.3	19.3
美容院、床屋などの費用	▽	24.3	25.7
その他	▽	1.7	6.7

節約度:
節約したものと節約しなかったもののポイント差が
◎: +10 ポイント以上、
○: +0~10 ポイント未満
▽: 0~-10 ポイント未満
▼: -10 ポイント以下

【海外旅行】

・海外旅行人数は 1,693 万人(前年比▲3.1%)、平均消費額は 273,600 円(前年比+3.0%)と推計

2014 年は、2013 年同様、アジアの中でも比較的遠距離にある、タイやマレーシア、シンガポールなどの東南アジアへの訪問者が増加した。一方、中国、韓国については、2012 年秋以降の国際関係の影響から減少が継続している。こうした状況から、2014 年の海外旅行者数は、1,693 万人程度に減少する一方、平均消費額は、円安の影響や近隣諸国への渡航者が減少していることなどにより増加し、273,600 円程度(前年比+3.0%)と推計する。

【訪日外国人数】

・訪日外国人数は過去最高を更新し、1,328 万人(前年比+28.2%)と推計

2014 年は、円安傾向により日本へ旅行しやすい環境となったことや、2013 年 7 月に査証(ビザ)の免除・緩和が行われた東南アジア 5 カ国(タイ、マレーシア、ベトナム、フィリピン、インドネシア)に効果が出たことから、訪日外国人数は前年を大きく上回った。

こうした状況から、2014 年の訪日外国人数は、過去最高を更新し、1,328 万人程度(前年比+28.2%)になると推計する。

2000年～2014年の推計、2015年の見通し数値

年	総旅行人数(延べ人数)(万人)			国内旅行	海外旅行	旅行総消費額(億円)			平均 旅行 回数 (回)	訪日 外国人 数 (万人)
	国内旅行 人数 (万人)	海外旅行 人数 (万人)	平均 消費額 (円)	平均 消費額 (円)	国内旅行 消費額 (億円)	海外旅行 消費額 (億円)				
2000	34,326	32,544	1,782	36,940	312,300	175,900	120,200	55,700	2.70	476
	+2.1%	+1.8%	+8.9%	▲1.2%	▲8.7%	+0.2%	+0.6%	▲0.5%	+0.05	+7.2%
2001	33,840	32,218	1,622	36,500	293,000	165,100	117,600	47,500	2.66	477
	▲1.4%	▲1.0%	▲9.0%	▲1.2%	▲6.2%	▲6.1%	▲2.2%	▲14.7%	▲0.05	+0.2%
2002	34,042	32,390	1,652	35,550	293,800	163,600	115,100	48,500	2.67	524
	+0.6%	+0.5%	+1.8%	▲2.6%	+0.3%	▲0.9%	▲2.1%	+2.1%	+0.01	+9.9%
2003	33,781	32,451	1,330	35,590	300,800	155,500	115,500	40,000	2.64	521
	▲0.8%	+0.2%	▲19.5%	+0.1%	+2.4%	▲5.0%	+0.3%	▲17.5%	▲0.03	▲0.6%
2004	33,036	31,353	1,683	35,660	292,600	161,000	111,800	49,200	2.64	614
	▲2.2%	▲3.4%	+26.5%	+0.2%	▲2.7%	+3.5%	▲3.2%	+23.0%	+0.00	+17.9%
2005	32,256	30,516	1,740	35,600	294,500	159,900	108,600	51,300	2.62	673
	▲2.4%	▲2.7%	+3.4%	▲0.2%	+0.6%	▲0.7%	▲2.9%	+4.3%	▲0.02	+9.6%
2006	31,794	30,041	1,753	34,310	297,200	155,200	103,100	52,100	2.60	733
	▲1.4%	▲1.6%	+0.7%	▲3.6%	+0.9%	▲2.9%	▲5.1%	+1.6%	▲0.02	+8.9%
2007	31,710	29,981	1,729	34,170	305,600	155,200	102,400	52,800	2.60	835
	▲0.3%	▲0.2%	▲1.4%	▲0.4%	+2.8%	+0.0%	▲0.7%	+1.3%	+0.00	+13.9%
2008	31,251	29,651	1,600	33,760	286,300	145,900	100,100	45,800	2.51	835
	▲1.4%	▲1.1%	▲7.5%	▲1.2%	▲6.3%	▲6.0%	▲2.2%	▲13.3%	▲0.09	+0.0%
2009	30,455	28,910	1,545	31,940	253,400	131,500	92,300	39,200	2.25	679
	▲2.5%	▲2.5%	▲3.4%	▲5.4%	▲11.5%	▲9.9%	▲7.8%	▲14.4%	▲0.26	▲18.7%
2010	30,808	29,144	1,664	32,020	251,900	135,200	93,300	41,900	2.29	861
	+1.2%	+0.8%	+7.7%	+0.3%	▲0.6%	+2.8%	+1.1%	+6.9%	+0.04	+26.8%
2011	29,969	28,270	1,699	33,100	256,000	137,100	93,600	43,500	2.35	622
	▲2.7%	▲3.0%	+2.1%	+3.4%	+1.6%	+1.4%	+0.3%	+3.8%	+0.06	▲27.8%
2012	30,439	28,590	1,849	32,780	251,900	140,300	93,700	46,600	2.39	836
	+1.6%	+1.1%	+8.8%	▲1.0%	▲1.6%	+2.3%	+0.1%	+7.1%	+0.04	+34.4%
2013	30,833	29,090	1,747	33,940	265,600	145,000	98,700	46,300	2.42	1,036
	+1.3%	+1.7%	▲5.5%	+3.5%	+5.4%	+3.3%	+5.3%	▲0.6%	+0.03	+24.0%
2014	30,433	28,740	1,693	33,450	273,600	142,400	96,100	46,300	2.30	1,328
	▲1.3%	▲1.2%	▲3.1%	▲1.4%	+3.0%	▲1.8%	▲2.6%	±0.0%	▲0.12	+28.2%
2015	30,730	29,030	1,700	33,700	279,100	145,200	97,800	47,400	2.42	1,500
	+1.0%	+1.0%	+0.4%	+0.7%	+2.0%	+2.0%	+1.8%	+2.4%	+0.12	+13.0%

<報道関係の方からの問い合わせ先>

JTB 広報室 03-5796-5833